

令和6年2月6日

京都市文化市民局

担当：文化芸術都市推進室文化芸術企画課  
電話：075-222-3119

## 令和5年度京都市芸術新人賞及び京都市芸術振興賞の被表彰者の決定

京都市では、本市出身者又は本市内において活発な文化芸術活動を行い、全国的にも評価を高め、将来を嘱望される方々に「京都市芸術新人賞」を、また、同じく京都市内で活動を行い、新人の育成又は芸術に係る活動環境の向上に多大の功労があった方々に「京都市芸術振興賞」を授与し、その功績を称えています。

この度、令和5年度の被表彰者を決定し、2月13日（火）に表彰式を行います。

なお、本制度は、昭和50年度に創設し、令和4年度までに京都市芸術新人賞として263件の方々を、京都市芸術振興賞として143件の方々を表彰しています。

### 1 被表彰者（敬称略・五十音順）

#### (1) 京都市芸術新人賞（12名）

あつちともこ 厚地 朋子	(洋画)
おくやまりこ 奥山 理子	(アートプロデュース・芸術振興（共生社会）)
きむ 金 サジ	(写真)
くらたみどり 倉田 翠	(舞踊)
こにし たけひろ 小西 雄大	(食文化)
さいはて 最果 タヒ	(文学（詩）)
さのあきら 佐野 暁	(漆芸)
しみず てつたろう 清水 徹太郎	(洋楽（声楽）)
みやた さやか 宮田 彩加	(染織・刺繍)
やまもと まきこ 山本 麻紀子	(現代美術)
よしおか りほ 吉岡 里帆	(映画・演劇（俳優）)
よしき まりえ 芳木 麻里絵	(版画・現代美術)

(2) 京都市芸術振興賞（9名）

いけだ よしのり 池田 良則	(洋画)
おおしま よしみ 大嶋 義実	(洋楽 (フルート))
おおたがき まこと 太田垣 實	(美術評論)
かわしま けいこ 川嶋 啓子	(芸術振興 (染織・ファイバーアート))
しもで ゆうたろう 下出 祐太郎	(漆芸)
せこぐち さき 世古口 瑳喜	(洋舞)
なかがわ しん 中川 眞	(学術 (アーツマネジメント・音楽))
はまだ たいすけ 浜田 泰介	(日本画)
ふしき とおる 伏木 亨	(学術 (食文化))

## 2 表彰式

(1) 日時

令和6年2月13日 (火)

1部：【京都市芸術振興賞】午後1時～

2部：【京都市芸術新人賞】午後2時30分～

(2) 場所

京都市役所 本庁舎4階 正庁の間

(3) 出席者

被表彰者及び同伴者

西村 義直 京都市会議長

平山 よしかず 京都市会副議長

江村 理紗 京都市会文教はぐくみ委員会委員長

椋田 隆知 京都市会文教はぐくみ委員会副委員長

山本 陽子 京都市会文教はぐくみ委員会副委員長

篠原 資明 京都市芸術新人賞・京都市芸術振興賞選考委員会委員代表

門川 大作 京都市長

吉田 良比呂 京都市副市長

砂川 敬 京都市文化芸術政策監

(4) 次第 (1部・2部共通)

開会

来賓紹介

表彰状の授与

京都市長挨拶

来賓祝辞 (京都市会議長)

祝辞・功績紹介 (京都市芸術新人賞・京都市芸術振興賞選考委員会委員代表)

被表彰者代表謝辞

閉会

# 厚地 朋子

あつち ともこ (39歳)  
洋画／滋賀県大津市



## 【功績】

京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画領域油画専攻修了。  
遠近法のような明快な思考方法では捉えられない、目の前に広がる空間を絵に置き換えて表現。力強い筆致で、複数の光源や視点が混ざり合った独特のユーモアを感じさせる作品を制作している。  
京都を拠点に活動し、作品制作のほかにも、関西在住の10名の現代美術家によるアートブック『辺集』の共同企画・出版や、ALLNIGHT HAPS 2016後期展「私がしゃべりすぎるから／私がしゃべりすぎないために」の企画に取り組むなど、その活動は多岐にわたる。  
令和4年度からは大学の教育学部で助教を務め、美術と教育との関係についても考えを巡らせている。

## <略歴>

- ・京都市出身
- ・京都市立芸術大学美術学部美術科油画専攻卒業（平成20年）
- ・京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画領域油画専攻修了（平成22年）

## <現在>

- ・平安女学院大学子ども教育学部助教

## <主な受賞歴等>

- ・「京都市立芸術大学作品展」市長賞（平成20年）、大学院市長賞（平成22年）
- ・「美術館リ・ポーンに向けて」市展・京展80周年記念展「2016京展」芝田記念賞（平成29年）

## <主な活動等>

- ・「絵画の在りか」（東京オペラシティ アートギャラリー／平成26年）
- ・「六甲ミーツ・アート 芸術散歩2018」（六甲山山上周辺施設／兵庫／平成30年）
- ・「画家の写真展」（soda／京都／平成30年）
- ・「継ぎ接ぎ展」（TEZUKAYAMA GALLERY／大阪／平成31年）
- ・【個展】「君はなんもわかってないなあ」（FINCH ARTS／京都／令和元年）
- ・【個展】「恥の絵」（TEZUKAYAMA GALLERY／大阪／令和2年）
- ・「清須市 第10回 はるひ絵画トリエンナーレ」（清須市はるひ美術館／愛知／令和3年）
- ・【個展】「レギンスで闊歩する」（kumagusuku SAS／京都／令和3年）
- ・【個展】「浮いてる家」（カモガワ アーツ&キッチン／京都／令和4年）
- ・「NEW INTIMACIES -WILD WILD WEST-」（Gallery PARC／京都／令和4年）
- ・「京都府新鋭選抜展」（京都文化博物館／令和5年）
- ・厚地朋子／石井佑果「3cmと3km - 対岸を眺める -」（TEZUKAYAMA GALLERY／大阪／令和5年）

## <京都市との関わり>

- ・ALLNIGHT HAPS 2016後期展「私がしゃべりすぎるから／私がしゃべりすぎないために」企画（平成28年）
- ・「京都市文化芸術総合相談窓口（KACCO）ゲスト相談員の日」出演（京都芸術センター／令和5年）

## <代表作等>



「盆地的空間認識 #2」  
（令和2年）



「浮いてる家 #2」  
（令和5年）

# 奥山 理子

おくやま りこ (37歳)

アートプロデュース・芸術振興 (共生社会) / 京都府亀岡市



## 【功績】

京都府生まれ。母が、絵画活動で注目された社会福祉法人松花苑みずのきの施設長に就任したことに伴い、12歳から休日のみずのきで過ごす。平成19年以降の同法人主催のアートプロジェクトや、農園活動にボランティアで従事した後、平成24年、みずのき美術館の立上げに携わり、以降企画運営を担う。2万点を超える所蔵作品のアーカイブ、アール・ブリュットの考察、社会的支援を必要とする人たちとのアートプロジェクトなど、企画は多岐にわたる。アーツカウンシル東京「TURN」コーディネーター、東京藝術大学特任研究員を経て、令和元年、HAPS「文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業」に参画し、相談事業「Social Work / Art Conference」ディレクターに就任。現在、東京藝術大学 Diversity on the Arts Project 非常勤講師を務めるなど、幅広く活動している。

## <略歴>

- ・京都府出身
- ・社会福祉法人松花苑主催のアートプロジェクトや農園活動にボランティアで従事 (平成19～23年)
- ・みずのき美術館の立ち上げに携わる (平成24年)
- ・アーツカウンシル東京「TURN」コーディネーター (平成27～30年)
- ・東京藝術大学特任研究員 (平成30年)

## <現在>

- ・みずのき美術館キュレーター
- ・東京藝術大学 Diversity on the Arts Project 非常勤講師
- ・瓜生山学園京都芸術大学大学院文化デザイン・芸術教育領域非常勤講師

## <主な受賞歴等>

- ・京都府あけぼの賞 (令和4年)

## <主な活動等>

### 【展示】

- ・「みずのき美術館コレクション展」(みずのき美術館 / 京都 / 平成25年～)
- ・「Boatbuilding Project アユブネ」[ayubune 舟を作る] (みずのき美術館 / 京都 / 平成26年)
- ・「みずのきアーカイブのための展覧会」(みずのき美術館 / 京都 / 平成28年～)
- ・錦市場商店街ナイトミュージアム「若沖とみずのき」奇想の絵師×アール・ブリュット美術館 (京都錦市場商店街 / 平成28年)
- ・共生の芸術祭「アートと障害のアーカイブ・京都」(京都文化博物館ほか / 京都 / 平成30年)
- ・「「CONNECT⇄」～芸術・身体・デザインをひらく～」(京都市京セラ美術館 / 令和2～3年)
- ・SOU-JR 総持寺駅アートプロジェクト「MODERN TIMES」(JR総持寺駅 / 大阪 / 令和5年)

### 【その他】

- ・画材循環プロジェクト「巡り堂」企画 (令和4年～)

## <京都市との関わり>

- ・HAPS「Social Work / Art Conference」ディレクター (令和2年～)
- ・京都文化芸術都市創生審議会委員 (令和4年～)

## <代表作等>

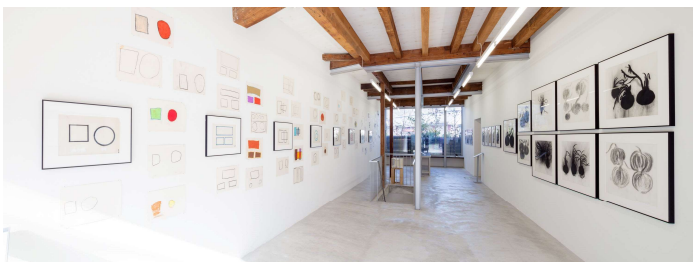
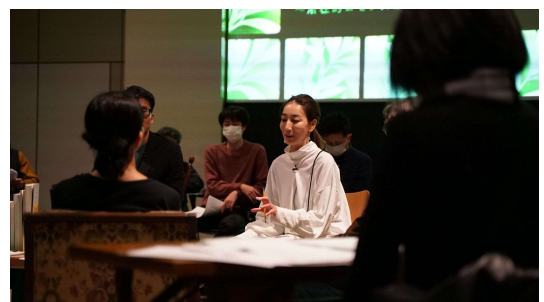


Photo : Hyogo Mugyuda

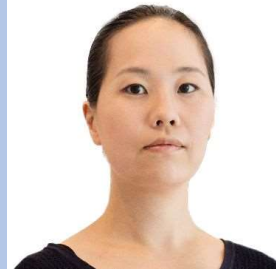
みずのき美術展示風景



©京都市立芸術大学

シンポジウム「共生と分有のトポス～潜在的なコモンスの連環デザイン」登壇 (令和4年)

金 サジ きむ さじ (42歳)  
写真/京都市山科区



【功績】

成安造形大学造形学部デザイン学科写真クラス卒業。

自身のルーツや経験から物語を創出し、演出写真の技法を用いて作品を制作。民族、国籍、性別などのアイデンティティを巡る問題について思考し、日本国内の集落や海外からの移住者のコミュニティなどに触れることで風習や芸能、儀式などに身体的感覚を積み重ね、そこから創出された物語の写真作品を展開している。令和4年には株式会社赤々舎から写真集『物語』を出版。

現在は京都にある自身のスタジオを拠点に活動。写真家として活動しながら、韓国舞踊家から韓国伝統芸能を学び、新たな可能性を探るなど、今後益々の活躍が期待されている。令和4年京都府文化賞奨励賞受賞。

本名：金 沙織 (きむ さおり)

＜略歴＞

- ・京都市出身
- ・成安造形大学造形学部デザイン学科写真クラス卒業 (平成17年)

＜現在＞

- ・金一志芸術団団員

＜主な受賞歴等＞

- ・「キャンオン写真新世紀」グランプリ (平成28年)
- ・京都府文化賞奨励賞 (令和4年)
- ・「谷城統一全国総合芸術大展」長官賞 (韓国) (令和4年)

＜主な活動等＞

- ・【個展】「満月の夜、男は墓を建て、女はぼっくりを食べる」(東京都写真美術館/平成29年)
- ・【個展】「STORY」(art space NIJI/京都/平成29年)
- ・showcase#6 "引用の物語 storytelling" curated by minoru shimizu (eN arts/京都/平成29年)
- ・Ascending Art Annual Vol.1「すがたかたち」(ワコールスタディーホール京都/平成29年)
- ・京都府新鋭選抜展 2018 - Kyoto Art for Tomorrow (京都文化博物館/平成30年)
- ・【個展】「白の虹 アルの炎」(THEATRE E9 KYOTO/令和2年)
- ・【個展】「AMA～ウイルスどうたう～」(Lumengallery/京都/令和3年)
- ・【個展】「山に歩む舟」(PURPLE/京都/令和4年)
- ・Kyoto Interchange「金サジ マユンキキ 山本麻紀子」(半兵衛麩五条ビル/京都/令和4年)
- ・「世界水泳選手権2023福岡大会記念展 水のアジア」(福岡アジア美術館/令和5年)

【出版】

- ・写真集『物語』(赤々舎/令和4年)

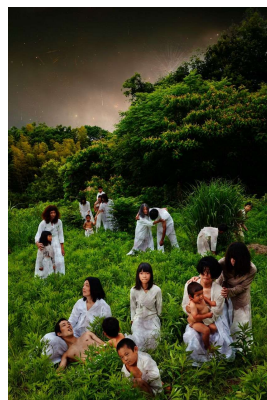
＜京都市との関わり＞

- ・Arts Aid KYOTO～京都市 連携・協働型文化芸術支援制度～「通常支援型」令和4年度採択
- ・「東九条 空の下写真展×希望の家児童館×金サジ「なりたい自分になる！」てんらんかい」(京都市地域・多文化交流ネットワークセンター/令和4年)  
※HAPS「文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業」令和4年度モデル事業「離れられない大切な場所とともに生きていくために」で制作協力

＜代表作等＞



「AMA」より  
「二匹が出会う」  
(令和3年)



「物語」シリーズより  
「永遠に歩く人々」  
(令和4年)

倉田 翠 くらた みどり (36歳)  
舞踊／京都市北区

©山田 毅



【功績】

京都造形芸術大学（現 瓜生山学園京都芸術大学）映像・舞台芸術学科卒業。  
京都を拠点に、演出家・振付家・ダンサーとして活動。薬物依存の回復施設の入所者の方や東九条地域の方と交流し共同制作を行うなど、作品ごとに自身や他者と向かい合い、そこに生じる事象を舞台構造を使ってフィクションとして立ち上げらせることで「ダンス」の可能性を探求している。  
平成28年から倉田翠とテクニカルスタッフのみの団体「akakilike（アカキライク）」の主宰を務め、アクターとスタッフが対等な立ち位置で作品に関わる事を目指し活動している。akakilike初期の代表作とも言える『家族写真』（平成28年初演）は、国内外で幾度も再演を行っており、今後益々の活躍が期待されている。

＜略歴＞

- ・三重県出身
- ・京都造形芸術大学映像・舞台芸術学科卒業（平成22年）

＜現在＞

- ・akakilike（アカキライク）主宰
- ・まつもと市民芸術館 芸術監督（舞踊部門）

＜主な受賞歴等＞

- ・「KUAD graduates under 30 selected」嶋敦彦（国立国際美術館副館長）賞（平成26年）

＜主な活動等＞

- ・akakilike「シスターコンプレックスシンドローム」演出・振付・出演（元立誠小学校／京都／平成29年）
- ・akakilike「家族写真」演出・振付・出演  
（Les Brigittines、パリ日本文化会館、ロームシアター京都ほか／ベルギー、フランス、京都ほか／平成29、30、令和2、5、6年）
- ・akakilike「捌く-Sabaku」演出（アトリエ劇研、d-倉庫、東京芸術劇場／京都、東京／平成29、30、令和4年）
- ・akakilike「明日で全部が終わるから今までにした最悪なこの話をしようランド」演出・振付・出演  
（THEATRE（THEATRE E9 KYOTO／令和元年）
- ・akakilike「眠るのがもったいないくらいに楽しいことをたくさん持って、夏の海がキラキラ輝くように、緑の庭に光あふれるように、永遠に続く気が狂いそうな晴天のように」演出・出演  
（京都芸術センター、d-倉庫、富士見市民文化会館、THEATRE E9 KYOTO／令和元～3年）
- ・「今ここから、あなたのことが見える／見えない」演出・構成・出演（新国際ビル、東京国際フォーラム／東京／令和4年）
- ・akakilike「15:00（静かに）電子レンジを壊す」演出・出演（NEUTRAL・Gallery PARC／京都／令和5年）
- ・さいたま国際芸術祭2023「指揮者が出てきたら拍手をしてください」演出・構成・出演  
（旧市民会館おおみや／埼玉／令和5年）

＜京都市との関わり＞

- ・「はじめまして こんにちは、今私は誰ですか？」（老人介護施設「故郷の家」、ロームシアター京都／京都／平成30、31年）  
（HAPS「文化芸術で人が輝く社会づくりモデル事業」の一環として平成29年度に制作）

＜代表作等＞



撮影：Pierre Grosbois

akakilike「家族写真」（平成28年）



撮影：前谷開

akakilike「眠るのがもったいないくらいに楽しいことをたくさん持って、夏の海がキラキラ輝くように、緑の庭に光あふれるように、永遠に続く気が狂いそうな晴天のように」（令和元年）

# 小西 雄大

こにし たけひろ (36歳)  
食文化／京都市上京区



©小野 さゆり

## 【功績】

東海大学体育学部卒業後、東京にある懐石料理店で研鑽を積み、現在は父・小西将清氏が主人を務める創業300年の老舗料亭「萬亀楼」の11代目若主人として、京の朝廷や宮中の節会などで供された有職料理の伝統と京文化を今に伝える。また、龍谷大学大学院農学研究科博士課程に在籍し、視覚から受ける先入観が味にもたらす影響など、「色とおいしさのメカニズム」の研究に取り組んでいる。

人材や食材の確保に危機感を持ち、京の食文化ミュージアム・あじわい館における京料理体験の講師をはじめ、食文化をテーマにしたシンポジウムへの参加やテレビ番組への出演など多岐にわたる活動を通じて、「和食」や「京の食文化」の保存・継承・発展に力を注いでいる。

## ＜略歴＞

- ・京都市出身
- ・東海大学体育学部卒業（平成22年）
- ・大学卒業後、「新宿 京懐石 柿傳」で修業（平成22～25年）
- ・龍谷大学大学院農学研究科修士課程修了（令和4年）

## ＜現在＞

- ・「有職料理 萬亀楼」11代目若主人
- ・生間流式庖丁31代目次期継承者  
※式庖丁は、平安時代から宮中で節会等のおめでたい日に行われてきた食の儀式。烏帽子、袴、狩衣姿で、まな板の上の魚や鳥に直接手を触れずに、包丁刀を使ってめでたい形に切り分ける技。「生間流式庖丁」はその流儀の一つ。
- ・京都料理芽生会理事
- ・NPO法人日本料理アカデミー所属
- ・龍谷大学大学院農学研究科博士課程在籍

## ＜主な活動等＞

- ・「水野真紀の魔法のレストラン」出演（MBS／令和2年～）
- ・「ニュース630 京いちにち」出演（NHK京都／令和5年～）
- ・「きょうの料理」出演（NHK／令和5年～）
- ・「伝統産業×食文化」コラボ推進委員会」参画（平成30年）
- ・「伝統産業×食文化」新文化産業創造プロジェクト」参画（平成31年～令和2年）
- ・「食文化×次世代シンポジウム」出演（京都調理師専門学校／令和4年）
- ・「本物のダシを味わうことは教養である in Tokyo」出演（お茶の水女子大学／東京／令和5年）

## ＜京都市との関わり＞

- ・「次世代の京料理人に習う京料理教室」講師（京の食文化ミュージアム・あじわい館／令和元年）
- ・「文化の結び」project－年中行事×京料理－親子で学ぶおせち料理」レシピ動画出演（令和3年）
- ・「あじわい館開館10周年アニバーサリーイベント」（京の食文化ミュージアム・あじわい館／令和5年）
- ・京都デスティネーションキャンペーン「第58回京の冬の旅」JRグループポスター出演（令和6年）

## ＜代表作等＞



「食文化×次世代シンポジウム」  
（京都調理師専門学校／令和4年）

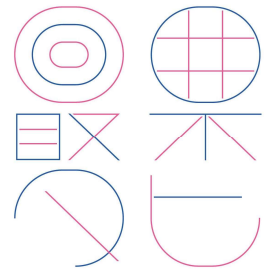


だしの講習会（お茶の水女子大学／東京／令和5年）

# 最果 外

さいはて たひ (37歳)

文学 (詩)



### 【功績】

昭和61年に生まれ、学生時代を京都で過ごす。平成16年よりインターネット上で詩作を始め、翌年より『現代詩手帖』の新人作品欄に投稿を開始。平成18年に現代詩手帖賞を受賞し、翌年上梓した第一詩集『グッドモーニング』が中原中也賞に輝くなど、早くより注目を浴びる。

その後も数々の詩集を精力的に出版し、『死んでしまう系のぼくらに』で現代詩花椿賞を受賞、『夜空はいつでも最高密度の青色だ』は石井裕也監督により映画化されるなど、いずれも高い評価を得ている。

詩作に加え、小説や随筆、翻訳等も手掛けており、百人一首を詩の言葉で現代語訳した『千年後の百人一首』の出版や、京都の宿泊施設や商業施設での展示を行うなど、活躍の場は多方面に広がっている。

### <略歴>

- ・『現代詩手帖』の新人作品欄に投稿を始める (平成17年)
- ・第一詩集『グッドモーニング』で中原中也賞を受賞 (平成20年)
- ・第三、第四詩集収録の詩を原作としたショートフィルム番組「さいはてれび」が配信 (平成29年)
- ・第四詩集『夜空はいつでも最高密度の青色だ』が石井裕也監督により映画化 (平成29年)
- ・清川あさみとの共著『千年後の百人一首』で100首を詩の言葉で現代語訳 (平成29年)
- ・「さいたま国際芸術祭2020」に参加 (令和2年)

### <主な受賞歴等>

- ・現代詩手帖賞 (平成18年)
- ・中原中也賞 (平成20年)  
(『グッドモーニング』(思潮社/平成19年))
- ・現代詩花椿賞 (平成27年)  
(『死んでしまう系のぼくらに』(リトル・モア/平成26年))
- ・京都府文化賞奨励賞 (令和6年)

### <主な活動等>

#### 【詩集】

- ・『グッドモーニング』(思潮社/平成19年)
- ・『死んでしまう系のぼくらに』(リトル・モア/平成26年)
- ・『夜空はいつでも最高密度の青色だ』(リトル・モア/平成28年)
- ・『さっきまでは薔薇だったぼく』(小学館/令和4年)

#### 【小説】

- ・『十代に共感する奴はみんな嘘つき』(文藝春秋/平成29年)
- ・『パパラレレルル』(河出書房新社/令和3年)

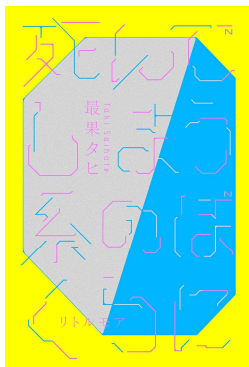
#### 【随筆】

- ・『百人一首という感情』(リトルモア/平成30年)
- ・『神様の友達の友達の友達はぼく』(筑摩書房/令和3年)
- ・『恋できみが死なない理由』(河出書房新社/令和5年)

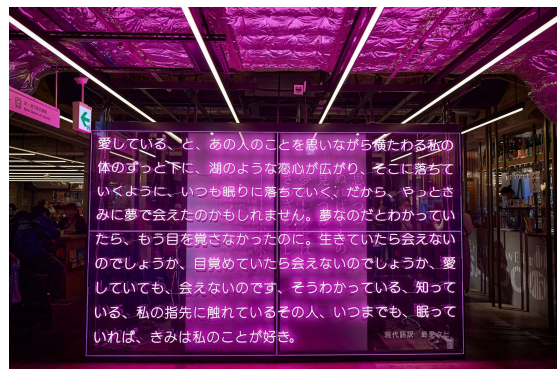
#### 【展示】

- ・「われわれはこの距離を守るべく生まれた、夜のために在る6等星なのです。」  
(PARCO MUSEUM TOKYOほか/令和2~3年)、(HEP FIVE 8F HEP HALL/大阪/令和5年)
- ・「詩を一服」(京都タワーサンド/令和5年)

### <代表作等>



『死んでしまう系のぼくらに』(リトル・モア/平成26年)



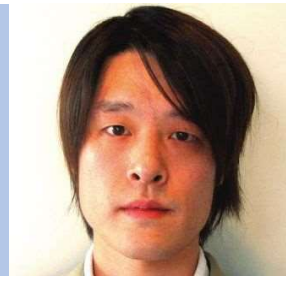
「詩を一服」(京都タワーサンド/令和5年)



# 佐野 暁

さの あきら (42歳)

漆芸／京都市下京区



## 【功績】

ドイツでの滞在制作等を経て、京都市立芸術大学大学院後期博士課程漆工研究領域修了。

漆の制作を「キャラクター」を一つの依代として、そこに漆の霊性、魂を込めていくこととらえ、日本人の精神性に根ざした現代的な漆作品を創出。幼児や学生の講師など後進の育成にも取り組みながら、精力的に創作活動に取り組んでおり、漆を何層にも塗り重ね、磨き出された姿かたちに、螺鈿や蒔絵といった加飾技法を用いて生み出された作品は、工芸品でありながらも親しみやすさ、可愛さを感じさせる独自の世界観を表現している。

国境や時代を超えて愛される越境性を持つことを目指して制作されているこれらの作品は、国内外で高く評価されており、今後更なる活躍が期待されている。

## <略歴>

- ・滋賀県出身
- ・ドイツ メクレンブルク＝フォアポンメルン州にて滞在制作を行う（平成19～20年）
- ・京都市立芸術大学大学院後期博士課程漆工研究領域修了（平成23年）
- ・京都市立芸術大学非常勤講師（平成23～28年）

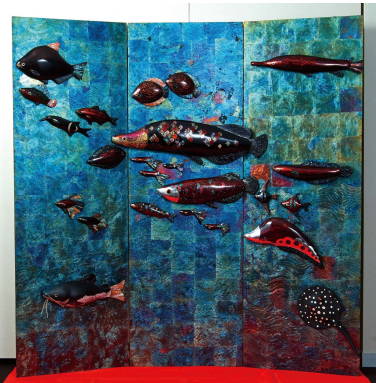
## <主な受賞歴等>

- ・「朝日現代クラフト展」入選（平成16、21年）
- ・「音の彫刻コンクール」入選（平成18年）
- ・「THE ROSTOCK-KYOTOART RAINBOW PROJECT」大賞（平成19年）
- ・「kawaii+展」新生堂賞（平成24年）
- ・「琳派400年記念新鋭選抜展」朝日新聞社賞（平成28年）
- ・「京都府新鋭選抜展」朝日新聞社賞（平成30年）

## <主な活動等>

- ・【個展】「THE FOODS」(BAMI gallery、あべのハルカス近鉄本店／京都、大阪／平成23、28～令和4年)
- ・【個展】「まどろみ」(松坂屋名古屋店／愛知／平成25、令和2年)
- ・「PowanPowan」公庄直樹佐野暁二人展（高松天満屋ほか／香川ほか／平成25～27、29、30年）
- ・「Dialogue with Materials: Contemporary Fine Japanese Art and Crafts」(Ahmed Adnan Saygun Sanat Merkezi イズミル／トルコ／平成26年)
- ・「美の予感2014 -Metamorphose-」(高島屋各店／京都、大阪、愛知、東京／平成26年)
- ・「京都府新鋭選抜展」(京都文化博物館／平成28、30年)
- ・「Hard Bodies : Contemporary Japanese Lacquer Sculptuere」(ミネアポリス美術館／アメリカ／平成29年)
- ・「彫刻の水族館」(日本橋三越／東京／平成29年)
- ・【個展】「URUSHISM」(福屋八丁堀店／広島／平成30年)
- ・「触れる美術展2019」(ギャラリー82／長野／平成31年)
- ・「10 WAVES」(あべのハルカス近鉄本店／大阪／令和2、3、5年)
- ・「KOGEI Art Fair Kanazawa2023」(ハイアットリージェンシー金沢／石川／令和5年)
- ・「神戸アートマルシェ2023」(神戸メリケンパークオリエンタルホテル／兵庫／令和5年)

## <代表作等>



「スイゾク」(平成30年)



「THE FOODS ; HOT DOG」(令和4年)

# 清水 徹太郎

しみず てつたろう (44歳)  
洋楽 (声楽) / 神戸市灘区



### 【功績】

京都市立芸術大学大学院音楽研究科声楽専攻修了。指揮者からの信頼も厚く、マダム・バタフライ国際声楽コンクールにおいては、オーケストラ及び指揮者より特別賞が授与された。ドイツのドレスデンに招聘され、ザクセン声楽アンサンブルジルヴェスターコンサート「メサイア」ではソリストを務めた。室内楽・宗教曲ではバッハ「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」エヴァンゲリストをはじめ、「第九」「合唱幻想曲」「天地創造」「カルミナ・ブラーナ」など多数の曲でソリストとして活躍している。また、オペラでは「カルメン」「夕鶴」「椿姫」「魔笛」「オテロ」「ファルスタッフ」「業平」等に出演しており、幅広い分野で高く評価されるとともに、今後のさらなる活躍が期待されている。自身の活動に留まらず、京都市立芸術大学等で講師も勤め、後進の指導にも邁進している。

### <略歴>

- ・兵庫県出身
- ・神戸市混成合唱団所属 (平成15～20年)  
※平成19年度テノールパートリーダー
- ・京都市立芸術大学大学院音楽研究科声楽専攻修了 (平成16年)
- ・マスタークラス・第1期オペラアカデミーinスタジオアマデウス修了 (平成27年)
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル所属 (平成20～23年)  
※平成22年度コンサートマスター
- ・武庫川女子大学音楽学部声楽非常勤講師 (平成23～30年)
- ・京都市立堀川音楽高校声楽非常勤講師 (平成25～令和4年)
- ・京都女子大学教育学部声楽実習非常勤講師 (平成28～31年)

### <現在>

- ・びわ湖ホール声楽アンサンブルソロ登録メンバー
- ・兵庫県音楽活動推進会議員
- ・藤原歌劇団正団員
- ・京都市立芸術大学、大阪音楽大学、滋賀大学 各講師

### <主な受賞歴等>

- ・「飯塚新人音楽コンクール 声楽部門」第2位 (平成18年)、第1位・文部科学大臣賞 (平成26年)
- ・「マダム・バタフライ国際声楽コンクール in 長崎」入賞及び特別賞 (平成20年)
- ・「ABC新人コンサート声楽部門」音楽賞 (平成23年)
- ・「東京音楽コンクール声楽部門」第3位 (平成23年)
- ・音楽クリエイティブクラブ奨励賞 (平成24年)
- ・「日本音楽コンクール 声楽部門」入選 (平成26年)
- ・神戸灘ライオンズクラブ音楽賞 (平成27年)
- ・坂井時忠音楽賞 (平成29年)
- ・兵庫県芸術奨励賞 (平成30年)
- ・京都府文化賞奨励賞 (令和6年)

### <主な活動等>

- ・「カヴァレリア・ルスティカーナ」トゥリッドゥ役 (神戸文化ホール／兵庫／平成16年)
- ・「ランスへの旅」ベルフィオール役 (いずみホール／大阪／平成20年)
- ・「メサイア」テノールソリスト (Annen Kirche 聖アンネ教会／ドイツ／平成28年)
- ・「ラインの黄金」ローゲ役 (滋賀県立びわ湖ホール／平成29年)
- ・「カルメン」ドンホセ役 (滋賀県立びわ湖ホール／令和3年)
- ・「夕鶴」与ひょう役 (兵庫県立芸術文化センター／令和4年)
- ・「サロメ」ナラボート役 (京都コンサートホール／令和5年)
- ・「メデア」ジャゾーネ役 (日生劇場／東京／令和5年)
- ・NHKニューイヤーオペラコンサート出演 (NHKホール／東京／令和6年)

### <代表作等>



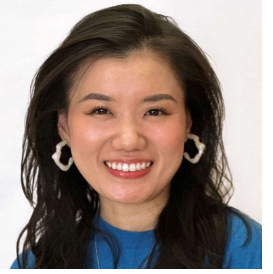
オペラ「夕鶴」与ひょう役 (中央)  
(兵庫県立芸術文化センター／令和4年)



オペラ「メデア」ジャゾーネ役 (左)  
(日生劇場／東京／令和5年)

# 宮田 彩加

みやた さやか (38歳)  
染織・刺繍／京都市北区



## 【功績】

京都造形芸術大学（現 瓜生山学園京都芸術大学）大学院芸術表現専攻修士課程染織領域修了。大学で染織を専攻したことがきっかけで、染めた布に奥行きやボリュームを出すために手刺繍・ミシン刺繍によるオリジナルテクニックを使った制作を始める。

ミシンという世の中に溢れた媒体に意図的にバグを起こすことで現れる糸の層「WARP」シリーズや、支持体の布を無くし、糸だけで構築させていく「Knots」シリーズなど、「エラー：失敗の行為によって新たな価値観が生まれる」を根本にしたテクニックと、生物の形態や、物事の発生や進化の在り方を呼応させた作品を制作。素材を活かした平面作品をはじめ、近年ではインスタレーション作品も多く手掛け、工芸と現代美術の架け橋となる活動をしている。

## <略歴>

- ・京都市出身
- ・京都造形芸術大学大学院芸術表現専攻修士課程染織領域修了（平成24年）

## <主な受賞歴等>

- ・「京都造形芸術大学卒業制作展」瓜生山賞、混沌賞、学科賞（平成20年）
- ・「京展」京展賞（平成26年）
- ・「琳派400年記念 新鋭選抜展 琳派FOREVER」日本経済新聞社京都支社賞（平成28年）
- ・「Kyoto Art for Tomorrow 京都府新鋭選抜展2017」優秀賞（平成29年）
- ・「蘇州工芸ビエンナーレ」高新区賞（令和3年）

## <主な活動等>

- ・「THE MIRROR」（名古屋商工会館／東京／平成26年）
- ・「交わるいと「あいだ」をひらく術として」（広島市現代美術館／平成29年）
- ・【個展】「花を形成するプロット Episode Kyoto」（ワコールスタディホール／京都／平成31年）
- ・「第22回岡本太郎現代芸術賞展」（川崎市岡本太郎美術館／神奈川／平成31年）
- ・「宮田彩加キュレーション どうかしてる日常」（KUNST ARZT／京都／平成31年）
- ・【個展】「かりのいと」（日本橋高島屋美術画廊／東京／令和2年）
- ・「Assemble 集積する技法と身体」（伊丹市立工芸センター／兵庫／令和2年）
- ・「疎密考」（和歌山県立近代美術館／令和3年）
- ・「素材転生—Beyond the Material」（岐阜県美術館／令和3年）
- ・「KYOTO STEAM2022 国際アートコンペティション」（京都市京セラ美術館／令和4年）
- ・「工芸、ここが素敵！」（京都文化博物館／令和4年）
- ・【個展】「発掘と装飾」（ギャラリー恵風／京都／令和4年）
- ・【個展】「裏腹のいとはよすが」（岐阜現代美術館／令和4年）
- ・「美術と風土 アーティストが触れた伊那谷展」（飯田市美術博物館、辰野美術館、豊中市文化芸術センター、白沙村荘 橋本閑雪記念館、碧南市藤井達吉現代美術館／長野、大阪、京都、愛知／令和5年）
- ・「札幌国際芸術祭2024」（北海道立近代美術館／令和6年）

## <代表作等>



撮影：矢野誠

「WARP II - エルンスト・ヘッケルへのオマージュ」（平成25年）



撮影：中川浩之

「分福茶熊」（平成29年）

# 山本 麻紀子

やまもと まきこ (44歳)  
現代美術／滋賀県大津市



## 【功績】

京都市立芸術大学大学院絵画専攻構想設計修了。ある特定の場所についての観察や考察を続け、常識や習慣など日常の中で見過ごされている事柄や疑問を糸口に、その場に関わる人たちとのコミュニケーションの在り方について考えるプロジェクトを行う。その一連の過程を、絵、写真、映像、染め、刺繍など様々な形式で作品制作を行っている。

HAPS「文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業」のモデル事業として、平成30～令和2年に総合福祉施設 東九条のぞみの園との協働プロジェクト「ノガミツプロジェクト」、令和2年から崇仁地域にて「崇仁すくすくセンター（挿し木プロジェクト）」をスタートさせ、主に高齢者福祉施設利用者など地域との関わりを起点にプロジェクトを展開。また、ライフワークとして、平成24年から日本とイギリスの巨人伝説をベースに、巨人の世界を追い続けている。

## ＜略歴＞

- ・京都府出身
- ・京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻構想設計修了（平成17年）
- ・東京都現代美術館勤務（平成19～20年）
- ・Kspace International School勤務（平成24～25年）

## ＜現在＞

- ・京都市立芸術大学非常勤講師
- ・崇仁すくすくセンター実行委員会実行委員長

## ＜主な活動等＞

- ・【個展】「Through The Windows」(The Russet／イギリス／平成24年)
- ・【個展】「クリテリオム84 山本麻紀子 “Mending Mito”」(水戸芸術館 /茨城／平成24年)
- ・【個展】「巨人と眠り」(Art Hostel Kumagusuku／京都／平成29年)
- ・装飾は流転するー今と向き合う7つの方法（東京都庭園美術館／平成29～30年）
- ・京都国際映画祭（元淳風小学校／京都／平成30年）
- ・【個展】「いつかの話 あの人の風」(元山王小学校／京都／平成31年)
- ・「セレブレーション 日本ポーランド現代美術展」  
(京都芸術センター、スターリ・プロヴァル、トラフォスタツィア／日本、ポーランド／令和元年)
- ・Story teller（アキバタマビ21／東京／令和元年）
- ・Kyoto Interchange「金サジ マンキキ 山本麻紀子」(半兵衛越五条ビル／京都／令和4年)
- ・伊藤愛・山本麻紀子「ふたりのおもいであふれるこてん」(生活介護事業所 野風草ほか／滋賀／令和5年)
- ・「あ、共感とかじゃなくて。」(東京都現代美術館／令和5年)

## ＜京都市との関わり＞

- ・「ノガミツプロジェクト」(東九条のぞみの園ほか／京都／平成30年)
- ・「巨人の歯と眠り」「糸と布染め」「挿し木プロジェクト」(崇仁地域／京都／令和2年)  
(以上、HAPS「文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業」モデル事業)
- ※ 「挿し木プロジェクト」は令和3年度から「崇仁すくすくセンター」として実行委員会を立ち上げ、自主的な活動を開始

## ＜代表作等＞



撮影：大倉英揮

「あ、共感とかじゃなくて。」展示風景  
(東京都現代美術館／令和5年)



崇仁すくすくセンター（挿し木プロジェクト）元崇仁市営住宅  
23棟南側で生きていたアジサイの地植え会の様子（令和5年）

# 吉岡 里帆

よしかかりほ (31歳)  
映画・演劇 (俳優) / 東京都



## 【功績】

京都府に生まれる。太秦撮影所でのエキストラ出演をきっかけに芝居の勉強を始め、学生演劇や自主映画に傾倒、東京の俳優養成所に通いながら役者として研鑽を積む。

連続テレビ小説「あさが来た」への出演をきっかけに注目を集め、以後映画や舞台、ドラマへの出演など幅広い分野で活躍。日本アカデミー賞新人俳優賞や優秀主演女優賞、日本映画批評家大賞助演女優賞をはじめ、数々の賞に輝いている。

平成29年には「京あるき in 東京 2017」広報大使、令和4年からは京都観光大使も務めるなど、京都の顔とも言える女優の一人であり、今後益々の活躍が期待されている。

## <主な受賞歴等>

- ・「コンフィデンスアワード・ドラマ賞」新人賞 (ドラマ「カルテット」) / 平成29年
- ・「エランドール賞」新人賞 (平成30年)
- ・やましな栄誉賞 (平成30年)
- ・「日本アカデミー賞」新人俳優賞 (映画「見えない目撃者」、映画「パラレルワールド・ラブストーリー」) / 令和2年)、優秀主演女優賞 (映画「ハケンアニメ!」) / 令和5年
- ・「ミラノ国際映画祭」外国語映画部門最優秀主演女優賞 (「The Stars My Destination / 星を継ぐ者」) / 令和3年)
- ・山路ふみ子女優賞 (映画「ハケンアニメ!」、映画「島守の塔」) / 令和4年)
- ・「日本映画批評家大賞」助演女優賞 (映画「島守の塔」) / 令和5年)

## <主な活動等>

### 【舞台】

- ・PARCO STAGE「スルメが丘は花の匂い」主演 (紀伊国屋サザンシアター-TAKASHIMAYA、松下IMPホール、久留米シティプラザ ザ・グランドホールほか / 東京、大阪、福岡ほか / 令和4年)
- ・「ガラスの動物園」「消えなさいローラ」出演 (紀伊国屋ホール、やまぎん県民ホール、松下IMPホール / 東京、山形、大阪 / 令和5年)

### 【映画】

- ・「ハケンアニメ!」主演 (令和4年)
- ・「アイスクリームフィーバー」主演 (令和5年)
- ・「怪物の木こり」出演 (令和5年)

### 【ドラマ】

- ・連続テレビ小説「あさがきた」出演 (平成27～28年)
- ・「時をかけるな、恋人たち」主演 (令和5年)

## <京都市との関わり>

- ・「京あるき in 東京 2017」広報大使 (平成29年)
- ・『京都文化カプロジェクト2016-2020 機関誌 vol.4』コラム寄稿 (令和2年)
- ・第1回京都文学賞最優秀作品『羅城門に啼く』帯文寄稿 (令和2年)
- ・京都観光大使 (令和4年～)

## <代表作等>



映画「ハケンアニメ!」主演 (令和4年)



ドラマ「時をかけるな、恋人たち」主演 (令和5年)

# 芳木 麻里絵 よしき まりえ (41歳)

版画・現代美術 / 京都市左京区



## 【功績】

京都精華大学芸術学部造形学科版画コース卒業後、京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程修了。現在は両大学の非常勤講師を務める。

「光の陰影」や「独特の質感を感じさせる表層」をキーワードに、レースのカーテン、チョコレートや菓子包装用の銀紙などのモチーフの表面をスキャンまたは接写して得た画像を元に、版画技法の一つであるシルクスクリーンを用いて、インクの層を数百回塗り重ねる特徴的な制作方法により、立体的な作品を生み出す。

日本各地の美術館や芸術祭に招聘され、その土地の文化についてリサーチと取材を重ねて制作したインスタレーション作品を発表するなど、作品表現の幅を年々広げており、今後益々の活躍が期待されている。

## <略歴>

- ・鹿児島生まれ
- ・京都精華大学芸術学部造形学科版画コース卒業（平成18年）
- ・京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程修了（平成20年）

## <現在>

- ・京都市立芸術大学非常勤講師
- ・京都精華大学非常勤講師

## <主な受賞歴等>

- ・「浜松市美術館版画大賞展」奨励賞（平成18年）
- ・「全国大学版画展」買上収蔵賞（平成19年）
- ・「群馬青年ビエンナーレ2012」入選（平成24年）
- ・「ゲンビどこでも企画公募2012」山出淳也賞（平成24年）

## <主な活動等>

- ・「おいしいアート 食と美術の出会い」（横須賀美術館 / 神奈川 / 平成26年）
- ・「timelake-時間の湖-」（KUNSTARZT / 京都 / 平成27年）
- ・「VOCA展2016 現代美術の展望 - 新しい平面の作家たち」（上野の森美術館 / 東京 / 平成28年）
- ・「MESSAGE2017 南九州の現代作家たち」（都城市立美術館 / 宮崎 / 平成29年）
- ・「姫路市民美術塾 コレクションと対話する Surface is ...」（姫路市民ギャラリー / 兵庫 / 平成30年）
- ・【個展】「析出する光」（奈義町現代美術館 / 岡山 / 令和元年）
- ・【個展】「fond de robe-内にある装飾-」（ワールスタディホール京都ギャラリー / 令和2年）
- ・「フロム・ジ・エッジ -80年代鹿児島生まれの作家たち」（鹿児島市立美術館 / 令和3年）
- ・【個展】「Precipitation」（私立大室美術館 / 三重 / 令和3年）
- ・【個展】「菓子模様」（高島屋 / 大阪 / 令和4年）
- ・「越後妻有 大地の芸術祭 2022」（旧枯木又分校 / 新潟 / 令和4年）
- ・「Favorite」（SAI Gallery / 大阪 / 令和5年）
- ・【個展】「菓子模様 / 星をみる」（zenzaiマージナルギャラリー / 鹿児島 / 令和5年）
- ・「Happy Holidays Art Shop :-）」（FINCH ARTS / 京都 / 令和5年）

## <代表作等>



「Lace#21」（平成24年）



「析出する光」（令和4年）

（「越後妻有 大地の芸術祭 2022」旧枯木又分校（新潟）での展示風景）

# 池田 良則

いけだ よしのり (72歳)  
洋画／京都市左京区



## 【功績】

画家の家系に生まれ、金沢市立美術工芸大学油画科中退後に高光一也氏に師事。  
洋画家として、国内はもとよりインド、中近東、中南米等を旅しながら数々の作品を制作し、個展・グループ展などを多数開催する傍ら、新聞連載や随筆の挿絵、書籍の装丁、ポスター・パンフレットなどのペーパーワークも数多く手がけるなど意欲的に活動している。また、京都で暮らす中で長年にわたって書き溜めた季節ごとの風景画を書籍として発行するなど、京都の魅力を広く発信してきた。  
さらに、日展評議員、白日会の常任委員を務めるほか、数々の展覧会等の審査員を歴任。京都精華大学で教鞭を取るなど、後進の育成にも精力的に携わっている。

## ＜略歴＞

- ・京都府出身
- ・金沢市立美術工芸大学油画科中退（昭和48年）
- ・日展初入選（昭和52年）以降連続入選
- ・白日会会員に推挙（平成7年）
- ・文化庁芸術家在外研修員としてメキシコ・グアナフアト大学 留学、同大学客員教授兼任（平成11年）
- ・日展審査員（平成13、17、20、24、27、令和2年）
- ・エディンバラ芸術大学夏期講習に京都府より参加（平成21年）

## ＜現在＞

- ・白日会常任委員
- ・日展会員
- ・京都精華大学非常勤講師

## ＜主な受賞歴等＞

- ・「日展」特選（昭和59年、平成9年）
- ・「白日会展」U賞（平成14年）、伊藤賞（平成23年）、中沢賞（平成29年）、平松譲賞（令和2年）、文部科学大臣賞（令和3年）、内閣総理大臣賞（令和4年）

## ＜主な活動等＞

- ・「文化庁現代美術選抜展」出展（昭和60、平成10年）
- ・【個展】「旅の光景」（高島屋／京都、岐阜、岡山／平成5年）
- ・【個展】「私のメキシコ」（高島屋／京都／平成14年）
- ・【個展】「素描と油彩」（ギャラリーヒルゲート／京都／平成22年）
- ・【個展】「わが心のメキシコ」（高島屋／京都／平成23年）
- ・【個展】「逍遙スコットランド」（ギャラリーヒルゲート／京都／平成25年）
- ・【個展】「ノルマンディの時間軸」展（高島屋／京都／平成29年）
- ・【個展】「風の中のサウダーデ」（ギャラリーヒルゲート、画廊岳／京都／平成30、31年）
- ・「それからの風のよみみち」（堺町画廊／京都／令和4年）
- ・【個展】「沖縄を描く」（ギャラリーヒルゲート／京都／令和4年）

## 【出版】

- ・画文集『沙漠の砂時計』（京都書院／平成2年）
- ・『京都よせがきちよとそこまで』（春・夏・秋・冬）（マリア書房／平成23、24年）

## ＜代表作等＞



「アジメル」（昭和59年）



「西陽のチュニジア」（令和3年）

# 大嶋 義実

おおしま よしみ (65歳)  
洋楽 (フルート) / 京都市下京区



## 【功績】

京都市立芸術大学卒業後、ウィーン国立音楽大学に入学し、同大学を最優秀で卒業。  
ソリストとして国内はもとよりヨーロッパ各地、アジア諸都市で毎年公演を行なうほか、ブラハ交響楽団、群馬交響楽団、京都市交響楽団など、数多くのオーケストラと協演。これまでに13枚のCDをリリースし、いずれも国内外の主要音楽誌上において高い評価を得ている。また、執筆活動も積極的に行い、マルチヌー、シュールホフの楽譜『フルートとピアノのためのソナタ』では、作品のみならず両作曲家の生涯を解説。貴重な邦文資料となっている。  
現在は京都市立芸術大学副学長・理事、同大音楽学部・研究科教授を務め、後進の育成に尽力。多方面で活動し、環境整備はもとよりクラシック音楽の普及にも貢献している。平成11年、京都市芸術新人賞受賞。

## ＜略歴＞

- ・大阪府出身
- ・京都市立芸術大学音楽学部卒業（昭和56年）
- ・ウィーン国立音楽大学卒業（昭和59年）
- ・ブラハ放送交響楽団首席フルート奏者（昭和62～平成元年）
- ・群馬交響楽団第一フルート奏者（平成2～9年）

## ＜現在＞

- ・京都市立芸術大学副学長、同大学音楽学部・研究科教授
- ・アジア・フルート連盟日本本部本部長

## ＜主な受賞歴等＞

- ・日本音楽コンクール フルード部門入選（昭和59年）
- ・日本管打楽器コンクール入賞（昭和61年）
- ・京都市芸術新人賞（平成11年）
- ・藤堂顕一郎音楽褒賞（平成28年）
- ・音楽本大賞読者賞（令和5年）  
（『演奏家が語る音楽の哲学』（講談社／令和4年））

## ＜主な活動等＞

- ・ソリストとして国内はもとよりロンドン、ウィーン、ブラハ、フィレンツェ、ローマなどで公演を行う
- ・日本音楽コンクール、ブルノ・ヤナーチェク国際音楽コンクール、ミラノ・ファラウトコンクール、びわこ国際フルートコンクール、全日本学生音楽コンクール、全日本吹奏楽コンクールをはじめ 各地のコンクールの審査員を務める

## 【CD】

- ・「哀愁の三重奏～過ぎにし夢に」（平成14年）
- ・「フルート四重奏曲集、フルート協奏曲」（平成20年）

## 【著書】

- ・『音楽力が高まる17の「なに？」』（共同音楽出版／平成23年）
- ・『マルチヌー フルードとピアノのためのソナタH306』（音楽之友社／平成28年）
- ・『シュールホフ フルードとピアノのためのソナタ』（音楽之友社／令和2年）
- ・『演奏家が語る音楽の哲学』（講談社／令和4年）

## ＜京都市との関わり＞

- ・京都市芸術新人賞・振興賞選考委員会委員（令和2年～）

## ＜代表作等＞



「大嶋義実60歳記念演奏会 誰が60歳やねん！  
大嶋義実と不肖の弟子たち」  
（京都府立府民ホールアルティ／平成30年）



『演奏家が語る音楽の哲学』  
（講談社／令和4年）



# 太田垣 實

おおたがき まこと (76歳)

美術評論／京都市亀岡市



## 【功績】

大阪外国語大学（現・大阪大学外国語学部）卒業。京都新聞社に入社後、昭和59年から美術記者となる。美術専門の編集委員・論説委員として活動する一方、京都芸術センターの創立・運営に尽力。京都新聞社を退職後は美術評論家連盟会員となり、平成20年から大阪成蹊大学芸術学部教授に就任。京都市美術館評議員、京都芸術センター運営副委員長などを歴任した。

京都を拠点に古今の美術を取材した長年の経験を生かし、執筆や講演会など活発に活動するとともに、京都の文化芸術を見守り評論を続けている。京都のアート界の活躍などを社会に紹介するだけでなく、作家に刺激や示唆を与え続けており、京都の新人美術家の育成や文化芸術活動の普及振興に多大な貢献を果たしている。

## ＜略歴＞

- ・兵庫県出身
- ・大阪外国語大学卒業（昭和45年）
- ・京都新聞社に入社し、編集局学芸部、社会部を経て美術部記者となる（昭和45～平成19年）
- ・大阪成蹊大学教授（平成20～25年）

## ＜現在＞

- ・公益財団法人中信美術奨励基金理事
- ・美術評論家連盟会員

## ＜主な活動等＞

- ・「京展」審査員（平成13～20年）
  - ・「滋賀県美術展覧会」審査員（平成23～24年）
  - ・「京都美術文化賞」選考委員（平成24年～）
- 上記のほか、「京都Art for Tomorrow」、「京都日本画新展」等の多数の選考委員等を務める

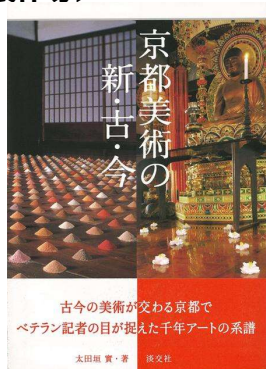
## 【出版】

- ・『京都の映画80年の歩み』（京都新聞社／昭和55年）
- ・『京都美術の新・古・今』（淡交社／平成18年）
- ・『富岡鉄斎』（共著／京都新聞社／平成3年）
- ・『美術家の墓標』（共著／京都新聞社／平成5年）
- ・『京洛の四季—近代名画100選』（共著／京都新聞社／平成7年）

## ＜京都市との関わり＞

- ・「芸術祭典・京」実行委員会委員（平成10～11年）
- ・京都芸術センター運営委員会委員（平成11～14年）、同副委員長（平成14～20年）
- ・京都市芸術文化特別奨励制度審査委員会専門員会委員（平成12～21年）
- ・京都芸術センター評議会委員（平成20～23年）
- ・京都市美術館評議員会評議員（平成21～27年）
- ・京都芸術センターアドバイザーボード（平成23年～）
- ・京都市美術館評議員会「将来構想検討委員会」委員（平成25～26年）
- ・京都市芸術新人賞・京都市芸術振興賞選考委員会委員（平成28～令和元年）

## ＜代表作等＞



『京都美術の新・古・今』  
（淡交社／平成18年）



『京洛の四季—近代名画100選』  
（共著／京都新聞社／平成7年）

# 川嶋 啓子

かわしま けいこ (66歳)  
芸術振興 (染織・ファイバーアート) / 京都市上京区



### 【功績】

同志社大学文学部文化学科美学及び芸術学専攻、成安女子短期大学造形学部染織専攻卒業。  
昭和63年から現代テキスタイルアートを中心に展示するギャラリーである「ギャラリーギャラリー」の運営を引継ぎ、令和4年まで30年以上の長きにわたり、現代美術やコンテンポラリーテキスタイルアートの発信を行ってきた。  
平成12年に京都インターナショナルコンテンポラリーテキスタイルアートセンター (KICTAC) を設立し、ディレクターとしてテキスタイルに関する情報公開、テキスタイル作家の紹介などを中心に、日本のテキスタイルの現状を国内外に広めるとともに、国内外の展覧会のコーディネーターや国際コンペの審査員を務めるなど、精力的に活動を続けている。また、これまでに多くの大学で非常勤講師を務めるなど、後進の育成にも力を注いでいる。

### <略歴>

- ・大阪府出身
- ・同志社大学文学部文化学科美学及び芸術学専攻卒業 (昭和55年)
- ・成安女子短期大学造形学部染織専攻卒業 (昭和59年)
- ・京都造形芸術大学 (現 瓜生山学園京都芸術大学) 非常勤講師 (平成20～24年)
- ・金沢美術工芸大学非常勤講師 (平成28年)
- ・京都市立芸術大学非常勤講師 (平成29年)
- ・名古屋芸術大学非常勤講師 (平成27～令和2年)
- ・ギャラリーギャラリーディレクター (昭和63～令和4年)

### <現在>

- ・京都インターナショナルコンテンポラリーテキスタイルアートセンター (KICTAC) ディレクター
- ・相愛大学非常勤講師
- ・成安造形大学非常勤講師

### <主な活動等>

#### 【海外コミッショナー】

- ・「インターナショナル トリエナーレ オブ タペストリー」 (ポーランド / 平成16、19、22、25、28年)

#### 【講演】

- ・パリ国立装飾大学(ENSAD) (フランス共和国 / 平成30年)
- ・平安女学院大学 (京都 / 令和5年)

#### 【国際審査員】

- ・「MINIARTXTILE COMO」 (イタリア / 平成21年)
- ・「WTA outside of Textile」 (王立植物園 / スペイン / 令和元年)

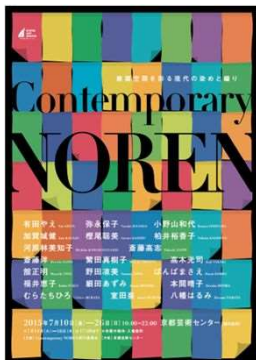
#### 【展覧会企画】

- ・「contemporary NOREN」展 (京都芸術センター / 平成25年)
- ・「Contemporary Textile Art MINIATURE WORKS THE KYOTO vol.3」 (NEUTRAL / 京都 / 令和6年)

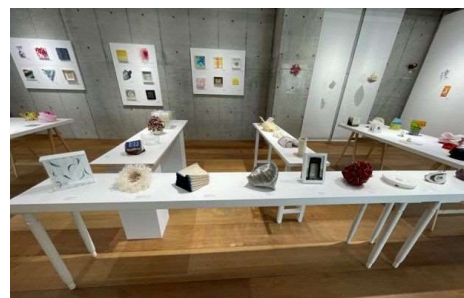
#### 【展覧会コーディネート】

- ・「Garden of Eden」 (オーストリア / 令和元年)
- ・「TANSA」 (イギリス、京都 / 令和3年)

### <代表作等>



展覧会企画  
「contemporary NOREN」展  
(京都芸術センター / 平成25年)



展覧会企画「Contemporary Textile Art  
MINIATURE WORKS THE KYOTO vol.3」  
(NEUTRAL / 京都 / 令和6年)

# 下出 祐太郎

しもで ゆうたろう (68歳)

漆芸／京都市下京区



## 【功績】

同志社大学文学部を卒業後、漆芸家の東端真笹氏、佐治賢使氏に師事。家業である蒔絵を継承し、即位礼や大嘗祭の神祇調度蒔絵、伊勢神宮式年遷宮御神宝に携わるほか、神仏具蒔絵の新調・修復を行う。また、日展24回連続入選など、創作活動も精力的に展開し、京都迎賓館では飾り台「悠久のささやき」など数多くの調度品の制作を担う。研究では桃山時代の高台寺蒔絵の材料・技法を学術的に裏付け、復元制作を実現。工芸文化財の保存修理も手掛ける。自工房では13人の弟子を育成、大学でも多数の学生に伝統工芸産業文化継承の重要性を教えるなど、後進の育成に尽力。さらに、近代産業とのコラボレーションを果たし、カシオの蒔絵腕時計や、NECの漆調バイオプラスチックを協働開発。海外での作品展示や蒔絵に関する講演・実演など、日本固有の蒔絵技術の国際的普及にも力を注いでいる。

## <略歴>

- ・京都市出身
- ・同志社大学文学部卒業（昭和52年）
- ・伝統工芸士認定（平成6年）
- ・下出蒔絵司所3代目を継承（平成7年）
- ・京都工芸繊維大学伝統みらい研究センター特任教授（平成18～27年）
- ・京都工芸繊維大学博士号（学術）取得（平成22年）
- ・京都美術工芸大学工芸学部伝統工芸学科教授（平成24～27年）
- ・京都産業大学文化学部京都文化学科教授（平成27～令和2年）

## <現在>

- ・下出蒔絵司所3代目
- ・京都産業大学客員教授、同大学名誉教授
- ・特定非営利活動法人京都漆芸文化教育研究会代表理事

## <主な受賞歴等>

- ・京展第40回記念賞（昭和63年）
- ・日工会展 日工会大賞（平成7年）
- ・京都市芸術新人賞（平成10年）
- ・関西美術展 美術展賞工芸第1席（平成11年）
- ・京都府伝統産業優秀技術者（平成28年）
- ・卓越した技能者（現代の名工）（令和3年）
- ・瑞宝単光章（令和5年）

## <主な活動等>

- ・高台寺蒔絵復元屏風を制作、イギリス・ロンドンのビクトリア&アルバートミュージアムにて展示（平成23年）
- ・「下出祐太郎の世界－京蒔絵・伝統の継承と美の再現－」（東海東京フィナンシャル・ギャラリー／東京／平成26年）
- ・「下出祐太郎 琳派 RIMPA りんぱ展 2015」（便利堂コロタイプギャラリー／京都／平成27年）
- ・外務省の日本ブランド発信事業で専門家として派遣、イタリア・スペイン・ポルトガルにて講演会と蒔絵のデモンストレーションを実施（平成28年）
- ・下出蒔絵司所展を定期的に開催（令和3年～）
- ・「高台寺蒔絵－魅力の解明と伝統技術の継承－」（京都工芸繊維大学美術工芸資料館／令和4年）

## 【出版】

- ・『平成の伝統工芸の粋－京都迎賓館に学ぶ－』（茜出版／令和3年）
- ・『京の美の継承』（京都新聞出版センター／令和3年）
- ・『京の美の巡礼』（京都新聞出版センター／令和5年）
- ・『京都迎賓館－匠の技とおもてなし』（茜出版／令和5年）

## <京都市との関わり>

- ・京都市伝統産業活性化推進審議会委員（平成22年～）
- ・京都市名誉市民表彰蒔絵盾の制作（令和元年～）

## <代表作等>



京都迎賓館水明の間飾り台  
「悠久のささやき」（平成17年）



高台寺蒔絵復元  
「源氏雲に菊楓五七桐紋散らし」  
（平成23年）

# 世古口 瑳喜

せこぐち さき (76歳)

洋舞 / 京都市右京区



## 【功績】

幼少から上島君子氏にバレエを師事。友松宏之氏、薄井憲二氏らに薫陶を受け、東京の井上バレエ団へ研修に行くなどの研鑽を重ねた後、平成11年にバレエスペースフェアリーを創設。バレエ芸術の向上と後進の育成に務める一方で、一般に馴染みの薄いグランドバレエ（幕物作品）の縮小版を発表するなど、バレエ作品の普及にも尽力した。

京都市芸術文化協会では評議員や芸術文化会議委員、全京都洋舞協議会では委員長や会長などの役職を務め、平成22年の「全京都洋舞協議会グアダハラ公演」では訪問団団長として公演を成功に導いた。

近年では全京都洋舞協議会の60周年記念公演の実行委員として舞台を支え、文化庁芸術祭舞踊部門優秀賞受賞に貢献したほか、多くのバレエ関連書籍を市の施設に寄贈するなど、京都のバレエの振興に大きく寄与した。

## <略歴>

- ・京都市出身
- ・上島君子バレエ研究所でバレエを始める（昭和29年）
- ・学業終了と同時に友松・上島バレエ研究所の指導助手に入る（昭和49年）
- ・バレエスペースフェアリーを創設、第1回発表会を開催 以後毎年夏休み時期に発表会を開催（平成11年～）
- ・全京都洋舞協議会委員長（平成22～24年）

## <現在>

- ・バレエスペースフェアリー主宰
- ・公益財団法人京都市芸術文化協会評議員、芸術文化会議委員
- ・日本バレエ協会関西支部会員
- ・全京都洋舞協議会会長

## <主な受賞歴等>

- ・舞踊文化功労賞（平成25年）
- ・京都市芸術文化協会賞（令和2年）

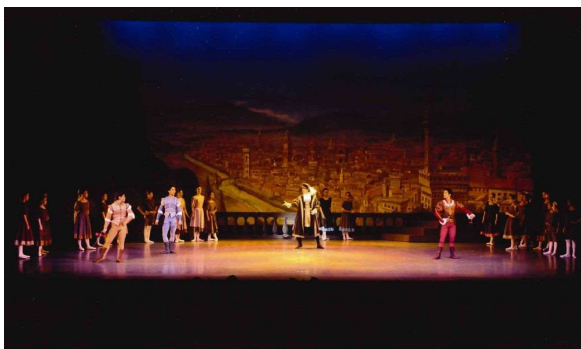
## <主な活動等>

- ・「ジゼル」（平成11年）、「ロミオとジュリエット」（平成25年）等をはじめ、グランドバレエ（幕物作品）の縮小版を多数発表
- ・第26回国民文化祭・京都2011「クラシックバレエの饗宴」企画委員（京都府長岡京記念文化会館／平成23年）
- ・「全京都洋舞協議会 60周年記念公演 Beyond the Generations ～世代を超えて～」実行委員（ロームシアター京都／令和元年）

## <京都市との関わり>

- ・京都・グアダハラ姉妹都市提携30周年記念事業「全京都洋舞協議会グアダハラ公演」訪問団団長（メキシコ／平成22年）
- ・ロームシアター京都 オープニング事業／公益財団法人京都市芸術文化協会創立35周年記念事業 深川秀夫版「白鳥の湖」実行委員（ロームシアター京都／平成28年）

## <代表作等>



「ロミオとジュリエット」（平成25年）



「ライモンダ」（平成27年）

# 中川 眞 なかがわ しん (72歳)

学術 (アーツマネジメント・音楽) / 京都市伏見区



### 【功績】

アジアの民族音楽、サウンドスケープ、アーツマネジメントを研究するかわら、「現代アートの森」芸術監督、船場アートカフェディレクターなどを歴任。著書『平安京 音の宇宙』でサントリー学芸賞、京都音楽賞、小泉文夫音楽賞、アーツマネジメントの成果で日本都市計画家協会賞特別賞、ゆめづくりまちづくり賞 (共同) を受賞。

ガムラン演奏家としても国内外で活動し、インドネシア共和国外務省文化交流表彰、総領事表彰を受ける。HAPS「文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業」監修を務めるほか、大阪市西成区、木津川市、奈良県十津川村などで社会包摂型アートの実践に注力。現在、大阪公立大学都市科学・防災研究センター特任教授。また、東南アジアの芸術実践との交流が長く、インドネシア芸術大学、チュロンコン大学 (タイ) では客員教授を務めている。

### ＜略歴＞

- ・奈良県出身
- ・京都大学文学部哲学科美学美術史学専攻卒業 (昭和50年)
- ・大阪大学大学院文学研究科芸術学専攻修士課程修了 (昭和55年)
- ・京都市立芸術大学音楽学部専任講師 (昭和61～平成3年)、助教授 (平成3～13年)
- ・大阪市立大学文学研究科教授 (平成13～29年)
- ・大阪市立大学 都市研究プラザ特任教授 (平成30年～令和4年)

### ＜現在＞

- ・大阪公立大学都市科学・防災研究センター特任教授
- ・インドネシア芸術大学客員教授
- ・アートミーツケア学会監事

### ＜主な受賞歴等＞

- ・京都府文化賞奨励賞 (平成2年)
- ・京都音楽賞、サントリー学芸賞 (平成4年)、小泉文夫音楽賞 (平成5年) (『平安京 音の宇宙』 (平凡社/平成4年) )
- ・インドネシア共和国外務省文化交流表彰 (平成16年)
- ・日本都市計画家協会賞特別賞 (共同受賞)、ゆめづくりまちづくり賞 (共同受賞) (平成22年)
- ・在大阪インドネシア共和国総領事表彰 (平成27年)
- ・佐治敬三賞 (マルガサリとして) (令和3年)

### ＜主な活動等＞

- ・『平安京 音の宇宙』 (平凡社/平成4年)
- ・『サワサワ』 (求龍堂/平成15年)
- ・『サウンドアートのトポス アーツマネジメントの記録から』 (昭和堂/平成19年)
- ・『アートの力』 (和泉書院/平成25年)
- ・『受容と回復のアート』 (編著/生活書院/令和3年)
- ・「ありえるかもしれない、ガムラン」出演 (マルガサリとして) (サントリーホール/東京/令和5年)

### ＜京都市との関わり＞

- ・HAPS「文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業」監修 (平成29年～)
- ・伝統芸能文化創生プロジェクト・復元活性化プログラム「十津川盆踊りの伝承・保存・活用発信」メンバー (令和元年～)
- ・KYOTO STEAM-世界文化交流祭-「NAQUYO - 平安京の幻視宇宙 -」アドバイザー (令和2～3年)

### ＜代表作等＞



『平安京 音の宇宙』 (平凡社/平成4年)



撮影: Naoya Ikegami

「ありえるかもしれない、ガムラン」演奏風景 (サントリーホール/東京/令和5年)

# 浜田 泰介

はまだ たいすけ (91歳)  
日本画／滋賀県大津市

撮影 山下武



## 【功績】

京都市立美術大学（現 京都市立芸術大学）大学院修了後、前衛日本画集団「ケラ美術協会」を結成。一時は抽象画の制作を手掛けていたが、米国滞在からの帰国後は、再び日本画家として活動を始める。

模写の修練を重ねて身につけたデッサン力を基に、下絵を用いず直接描き上げる技法で、大覚寺、醍醐寺、上賀茂神社、伏見稲荷大社など、京都市内の数々の寺や神社の襖絵や障壁画を制作。その作品は高く評価され、紺綬褒章ほか数々の賞を受賞（章）。「平成のふすま絵師」として名を馳せている。

令和5年には東寺の客殿壁画を完成させるなど、90歳を超える現在でも精力的に活動を続ける。平安女学院大学では客員教授を務め、後進の育成にも尽力している。

## ＜略歴＞

- ・愛媛県宇和島市出身
- ・京都市立美術大学大学院修了（昭和32年）
- ・岩田重義氏、楠田信吾氏らと前衛日本画集団「ケラ美術協会」を結成し活動（昭和34～39年）
- ・カーネギー財団による米国国際巡回展に招待（昭和36年）
- ・滋賀県大津市にアトリエを移す（昭和59年）

## ＜現在＞

- ・平安女学院大学客員教授

## ＜主な受賞歴等＞

- ・関西総合展賞（昭和30年）
- ・大津市文化特別賞（平成9年）
- ・密教学芸賞（平成12年）
- ・よんでん芸術文化賞（平成23年）
- ・愛媛新聞賞（平成24年）
- ・紺綬褒章（平成28年）
- ・愛媛県教育文化賞（令和元年）
- ・宇和島市功労賞（令和3年）

## ＜主な活動等＞

- ・1970年代から現在まで、日本各地のギャラリー、百貨店で個展を開催
- ・大覚寺（京都市）障壁画制作（平成4年）
- ・醍醐寺（京都市）障壁画制作（平成11年）
- ・東寺（京都市）観智院書院襖絵制作（平成15年）
- ・東寺（京都市）大日堂壁画「蓮の輪廻」制作（平成17年）
- ・白川郷（岐阜県）明善寺襖絵制作（平成18年）
- ・白川郷（岐阜県）明善寺本堂壁画（平成19年）
- ・上賀茂神社（京都市）襖絵制作（平成22年）
- ・伏見稲荷大社（京都市）襖絵制作（平成23年）
- ・吉田神社（京都市）床の間壁画制作（平成25年）
- ・石清水八幡宮（京都府）書院襖絵制作（平成27年）
- ・御岩神社（茨城県）大日堂壁画・天井画制作（令和元年）
- ・東寺（京都市）客殿壁画制作（令和5年）

## ＜京都市との関わり＞

- ・「artKYOTO 2022」作品出展（二条城／京都／令和4年）

## ＜代表作等＞



「醍醐寺三宝院襖絵《桜》」（平成11年）



「東寺観智院襖絵《四季》」（平成15年）

# 伏木 亨

ふしき とおる (71歳)  
学術 (食文化) / 滋賀県大津市



Photo Shoko Takayasu

### 【功績】

京都大学大学院農学研究科食品工学専攻博士課程を指導認定退学後、京都大学農学研究科教授、龍谷大学農学部食品栄養学科教授、甲子園大学副学長などを経て、現在は甲子園大学学長、一般社団法人和食文化国民会議会長、NPO法人日本料理アカデミー理事などを務める。

油脂やだしのおいしさに関するメカニズムの解明、おいしさの客観的評価手法の開発研究に力を注ぐとともに、“京都をつなぐ無形文化遺産”「京の食文化－大切にしたい心、受け継ぎたい知恵と味」の選定など、京都の食文化の継承に大きく貢献した。また、「和食；日本人の伝統的な食文化」のユネスコ無形文化遺産への登録に尽力し、日本人の伝統的な食文化である「和食」の普及や次世代へ継承していくため、シンポジウムや講演会にも精力的に取り組んでいる。

### ＜略歴＞

- ・京都府出身
- ・京都大学大学院農学研究科食品工学専攻博士課程指導認定退学（昭和55年）
- ・京都大学農学研究科教授（平成6～27年）
- ・京都大学白眉センター長（平成21～24年）
- ・龍谷大学農学部食品栄養学科教授（平成27～令和3年）
- ・龍谷大学農学研究科長（平成30～令和3年）
- ・龍谷大学食と農の総合研究所所長（平成30～令和3年）
- ・甲子園大学副学長（令和3～4年）

### ＜主な受賞歴等＞

- ・農芸化学奨励賞（平成2年）
- ・安藤百福賞優秀賞（平成20年）
- ・日本栄養・食糧学会賞（平成21年）
- ・飯島食品科学賞（平成24年）
- ・日本農芸化学会賞（平成25年）
- ・紫綬褒章（平成26年）
- ・日本味と匂学会賞（平成26年）
- ・和食－京の食文化－特別表彰（平成26年）
- ・日本農学賞（平成31年）

### ＜現在＞

- ・甲子園大学学長
- ・京都大学名誉教授
- ・一般社団法人和食文化国民会議会長
- ・NPO法人日本料理アカデミー理事
- ・日本食普及の親善大使

### ＜主な活動等＞

- ・『魔法の舌 身体に必要なものを美味しいと感じる不思議なしくみ』（祥伝社／平成8年）
- ・『グルメの話おいしさの科学』（恒星出版／平成13年）
- ・『ニッポン全国マヨネーズ中毒』（講談社／平成15年）
- ・『コクと旨味の秘密』（新潮社／平成17年）
- ・『人間は脳で食べている』（筑摩書房／平成17年）
- ・『おいさを科学する』（筑摩書房／平成18年）
- ・『味覚と嗜好のサイエンス』（京大人気講義シリーズ）（丸善出版／平成20年）
- ・『だしの神秘』（朝日新聞出版／平成29年）

### ＜京都市との関わり＞

- ・“京都をつなぐ無形文化遺産”審査会委員（平成25年）

### ＜代表作等＞



『味覚と嗜好のサイエンス』  
（丸善出版／平成20年）



『だしの神秘』  
（朝日新聞出版／平成29年）

令和5年度 京都市芸術新人賞・京都市芸術振興賞選考委員会委員

\*50音順、敬称略

氏 名	職 業 (役 職)
赤松 玉女	京都市立芸術大学（京都芸大）学長
大嶋 義実（※）	京都市立芸術大学（京都芸大）副学長、音楽学部教授
篠原 資明	国立美術館運営委員会会長、京都大学名誉教授
田端 泰子	京都橘大学名誉教授
中川 成美	立命館大学名誉教授
原田 奈名子	京都女子大学地域連携研究センター客員研究員
福井 尚子	ピアニスト、元京都市立京都堀川音楽高等学校講師
藤田 隆則	京都市立芸術大学（京都芸大）日本伝統音楽研究センター教授
森田 りえ子	京都市立芸術大学（京都芸大）客員教授
森西 真弓	大阪樟蔭女子大学名誉教授
吉田 良比呂	京都市副市長

（※）芸術新人賞の選考のみに出席



京都市芸術新人賞及び京都市芸術振興賞受賞者一覧（過去3年分）

表彰年度	芸術新人賞		芸術振興賞	
	氏名	分野	氏名	分野
令和4年度	うだか のりしげ 宇高 徳成	能楽	かしはら えつとむ 柏原 えつとむ	現代美術
	さいじょう あかね 西條 茜	陶芸・現代美術	かわかみ りきぞう 川上 力三	陶彫
	さわだ はな 澤田 華	現代美術	たかお みちこ 高尾 美智子	洋舞
	たにさき ゆい 谷崎 由依	文学（小説）	たなか みずず 田中 美鈴	洋楽（ピアノ）・芸術振興（音楽）
	ちば まさや 千葉 雅也	文学（小説）・学術（哲学）	ないとう ひではる 内藤 英治	染織
	なかじま としはる 中嶋 俊晴	洋楽（声楽）	なかのどう かずのぶ 中ノ堂 一信	学術（工芸文化史）
	ふじい としはる 藤井 俊治	洋画	/	
	ほそお まさたか 細尾 真孝	染織		
	むらやま はるな 村山 春菜	日本画		
	もりもと みずき 森本 瑞生	洋楽（打楽器）		
らく きちさえもん 楽 吉左衛門（十六代）	陶芸			
令和3年度	いしばし しろう 石橋 志郎	日本画	おぼろや ひさし 龐谷 寿	学術（歴史）
	こじま あき 小嶋 晶	現代美術	しらい すずむ 白井 進	書
	こんごう たつり 金剛 龍謹	能楽	つばき のぼる 椿 昇	現代美術
	さいとう あやこ 斉藤 綾子	舞踊	なみき せいし 並木 誠士	学術（美術史・美術館学）
	たにがわ みね 谷川 美音	漆芸	ふくい ひさこ 福井 尚子	洋楽（ピアノ）
	なかおか まずみ 中岡 真珠美	洋画	ほんじょう 本城 ゆり	舞踊
	なかむら ゆうた 中村 裕太	現代美術	みやし げんざん 三好 莞山	邦楽（尺八）
	はやし みねこ 林 美音子	邦楽（柳川三味線）	むらた じゅんいち 村田 純一	芸術振興（文学）
	ふくだ あやの 福田 彩乃	洋楽（サクソフォン）	一般財団法人ニッシャ いんさつぶんかしんこうざいだん 印刷文化振興財団	芸術振興 （印刷文化）
ふじの かおり 藤野 可織	文学（小説）			
令和2年	いながき みちこ 稲垣 路子	洋楽	いちだ ひろみ 市田 ひろみ	服飾文化
	いのうえ まい 井上 舞	日本画	かじたに のぶこ 梶谷 宣子	染色
	きのした ゆういち 木ノ下 裕一	演劇（監修・補綴）	きし てつお 喜志 哲雄	学術（演劇評論）
	くるり	音楽	きしろ よしじ 木代 喜司	彫刻
	こんたくと ごんぞ contact Gonzo	現代美術／パフォーマンス	しらいし たかこ 白石 孝子	洋楽（フルート・指揮）
	たにざわ さわこ 谷澤 紗和子	現代美術	はやし みえこ 林 美恵子	邦楽（柳川三味線）
	たるま しょうこ 柞磨 祥子	漆芸	やまぐち とみぞう 山口 富藏	食文化
	なかの りょうた 中野 量太	映画（監督）	公益財団法人稲盛財団 いなもりざいだん	芸術振興（文化全般）
	ふくだ きはる 福田 季生	日本画	かんさいびじゅついん 関西美術院	芸術振興（美術）
	もりみ とみひこ 森見 登美彦	文学（小説）	/	
わかき くるみ 若木 くるみ	版画／現代美術			

（敬称略）